

# モロッコ経済日誌 2011年10月

在モロッコ日本大使館経済班

## I. 国内経済

### 1. 指標等

#### ①2011年1月～9月までの貿易収支<sup>1</sup>

輸入・輸出とも増加。前年同期比で輸入額は20.3%、輸出額は16.7%の増加。ただし、カバー率(輸出額/輸入額)は前年同期の49.1%から47.6%へ減少した。

	2010年1月～9月	2011年1月～9月	推移
輸入額(CAF)	219,042	263,578	20.3%
輸出額(FOB)	107,618	125,568	16.7%
貿易収支	▲ 111,425	▲ 138,010	▲23.9%
カバー率(輸出額/輸入額)	49.1%	47.6%	

(単位:100万DH)

(1)輸入: 原油、軽油・重油、石油ガス等のエネルギー関連品目および機械類、化学製品など全体的に増加。他方、自動車は減少。

エネルギー関連の輸入額増は価格の上昇に伴うもの。原油輸入量はやや減少(375万トン、前年同期395万トン、前年同期比5.1%減)したが、原油輸入価格が前年同期比で31.8%上昇(6181DH/トン、前年同期は4691DH/トン)した。また、軽油・重油については輸入量も増加(372万トン、前年同期279万トン)、同時に輸入価格も前年同期比で25.6%上昇したため(6493DH/トン、前年同期は5170DH/トン)輸入額が前年比で67.6%と大幅に上昇した。

#### 主要輸入品目(単位100万DH)

品目	2010年 1月～9月	割合 (%)	2011年 1月～9月	割合 (%)	推移 (%)
軽油・重油	15,431	6.6	24,184	9.2	67.6
原油	18,532	8.5	23,171	8.8	25.0
石油ガス・その他ガス	9,645	4.4	12,335	4.7	27.9
麦	4,010	1.8	7,079	2.7	76.5
機械類	7,674	3.5	8,677	3.3	13.1
化学製品	6,411	2.9	7,955	3.0	24.1
プラスチック材料	6,081	2.8	7,820	3.0	28.6
自家用車	6,901	3.2	6,609	2.5	▲4.2
産業用車両	4,016	1.8	4,029	1.5	▲0.3

<sup>1</sup> モロッコ為替局ホームページ, www.oc.gov.ma, Indicateurs Préliminaires des Echanges Extérieurs Janvier-septembre 2011, (10月10日発表)

注)1DH(ディルハム)=約9.5円

麦の輸入額急増は、輸入量増加と輸入価格の上昇が要因。2010年1月～9月は200万トンを入力したのに対し、2011年同期は234万トンと増加。輸入価格も前年同期2000DH/トンから3026DH/トンへと高騰した。

## (2)輸出

燐鉱石・リン酸・肥料が全体に占める割合は27.9%と4分の1以上に相当(前年同期は24.6%)。その他の品目では魚缶詰以外全体的に増加。

品目	2010年1月～9月	2011年1月～9月	推移
燐鉱石・リン酸・肥料	26,421	34,985	32.4%
リン鉱石関連以外	81,197	90,583	11.9%

(単位:100万DH)

### 主要輸出品目(単位100万DH)

品目	2010年 1月～9月	割合(%)	2011年 1月～9月	割合(%)	推移(%)
燐鉱石派生品	19,937	18.5	26,025	20.7	30.5
衣類	13,139	12.2	14,305	11.4	8.9
ワイヤハーネス	9,495	8.8	10,706	8.5	12.8
燐鉱石	6,483	6.0	8,961	7.1	38.2
メリヤス類(靴下など)	4,995	4.7	5,455	4.4	9.2
甲殻類	3,575	3.3	3,733	3.0	4.4
トランジスター	3,685	3.4	3,802	3.0	3.2
魚缶詰	3,695	3.4	2,823	2.3	▲23.6
銅屑	1,303	1.2	2,306	1.8	77.0
果物(冷凍含む)	1,409	1.3	1,550	1.2	10.0
生トマト	1,354	1.3	1,506	1.2	11.3

## (3)その他指標

前年同期比で観光収入、在外モロッコ人からの海外送金は増加。海外からの直接投資は減少。

	2010年1月～9月	2011年1月～9月	推移
観光収入	42,771	45,024	5.3%
在外モロッコ人からの海外送金	40,737	44,096	8.2%
海外からの直接投資	21,420	16,889	▲21.2%

(単位:100万DH)

## 2. 建設・公共事業・インフラ等

### ①Addoha社会住宅建設の見通し<sup>2</sup>

<sup>2</sup> エコノミスト(10月12日), オジドゥイル・マロック(10月12日)

2011年の売上高は90億DHに達する見込み(前年比20%増)。

2010年度予算案の枠組みにより、2010年～2015年の間に15万戸の社会住宅を建設する契約を政府と締結。2011年は低所得者向け社会住宅および中級住宅を合わせた31,603戸を建設中。社会住宅および中級住宅の需要は現在120万戸、2022年には170万戸になると見られている。

### ②アルホセイマ浄水場の拡張<sup>3</sup>

10日、モハメッド6世国王がアルホセイマ浄水場拡張工事の竣工式を開催した。投資額は1.2億DHで、今回の拡張工事により一日当たりの処理可能水量が4800m<sup>3</sup>から9600m<sup>3</sup>へ増加した。

## 3. 農業・漁業

### ①小麦の輸入関税を再び一時撤廃<sup>4</sup>

4日、小麦確保のため軟質・硬質小麦の輸入関税一時撤廃を決定。軟質小麦は2011年10月1日から12月31日まで、硬質小麦は2011年11月15日から12月31日まで。  
(法令 NO-2-11-574, 官報未発出)

### ②オリーブ栽培およびオリーブオイル生産の強化<sup>5</sup>

農業近代化計画「Plan Maroc Vert」の枠組みによる強化。

	2009年	2020年(目標値)
耕作地面積	68万ヘクタール	122万ヘクタール
生産量	70万トン	280万トン
オリーブオイル輸出量	1万6千トン	12万トン
食用オリーブ輸出量	6万トン	15万トン
オリーブオイルの一人あたりの国内消費量	2キログラム	4キログラム
食用オリーブの一人あたりの国内消費量	3キログラム	5キログラム
雇用数(季節労働者含まず)	10万人	30万人
外貨収入	---	60億DH

## 4. 産業・エネルギー

### ①Tarfaya風力発電所建設の進捗状況<sup>6</sup>

Tarfaya 風力発電所(300MW)は2012年半ばに一部稼働する。完全に工事が終了するのは2013年の第一四半期になる見込み。(当館注:IPP事業権をモロッコ王室系企業 Nareva Holding と英国 International Power 社のジョイントベンチャーが落札。)

<sup>3</sup> ル・マタン(10月11日), エコノマップ(10月11日)

<sup>4</sup> エコノマップ(10月4日), エコノミスト(10月4日)

<sup>5</sup> ル・マタン(10月10日)

<sup>6</sup> オジドゥイ・ル・マロック(10月9日)

## ②再生可能エネルギー基金の運営会社が決定<sup>7</sup>

3日、特に再生可能エネルギー分野における金融実施のための国営株式会社であるエネルギー投資会社(SIE:Société d'investissement énergétique)は再生可能エネルギー基金(Fonds en énergies renouvelables)の運営会社を発表した。国際入札を経て、La Compagnie Benjamin de Rothschild(スイス)、Ascent Capital Partners(モロッコ)、Akvo Investment Management(ルクセンブルグ)のコンソーシアムが落札した。同基金の最低資金規模は10億～20億DHで、風力発電所を主とした再生可能エネルギー開発に関する投資案件の発掘及び形成を担う。同基金の運営には、SIE自身も密接に関与する。

## ③アガディール北部における海水淡水化パイロット計画<sup>8</sup>

アガディール北部 Ida Outannane における海水淡水化施設の建設に関し、2007年に実施された関心表明の募集に引き続き、7つの企業コンソーシアムが事前審査を通過。その後プロセスが停止していたが、今般やっと入札が開始された。

第一フェーズで実現される処理水量は10万m<sup>3</sup>/日で、投資額は12億DH。工事は2013年初頭に開始され2015年に完成予定。続く第二フェーズでは2030年に処理水量20万m<sup>3</sup>/日を実現する。モロッコにおいて初めて、民間企業により建設及び運営が行われる海水淡水化施設となる。

## ④セメント製造販売Ciment du Maroc社による風力発電所の竣工式<sup>9</sup>

21日、Ciment du Maroc社はLaâyouneの砕石所において風力発電所(5MW)の竣工式を開催した。同発電所は2011年7月に稼働し、同砕石所における需要電力の80%をカバーしている。建設会社はスペインのGamesa社で投資額は1億DH。

## 5. その他

### ①「Doing Business 2012」ビジネスの行い易さ度報告書<sup>10</sup>

18日に世界銀行が発表した報告書「Doing Business 2012」によれば、モロッコのランキングは世界183か国中94位と、昨年の114位から21ランクアップした。改善した主な項目は「建築許可」「投資家保護」「税制」。「建築許可」では、ワンストップ窓口を設置して必要手続きを容易にしたこと、「投資家保護」では、係争時において小口投資家が、機密性のない企業情報を入手することを可能としたこと、「税制」では電子手続きによる納税システムを導入したことなどが高評価され、今回のランクアップに繋がった。

<sup>7</sup> SIEコミュニケ(www.siem.ma), Les Echos quotidien(10月4日)

<sup>8</sup> エコノミスト(10月19日)

<sup>9</sup> エコノミスト(10月19日)

<sup>10</sup> 世界銀行 Doing Business 2012

順位	総合	会社 設立	建築 許可	電気ア クセス	不動産 登記	信用 獲得	投資家 保護	税制	貿易 手続	契約 履行	破産 手続
2012	94	93	75	107	144	98	97	112	43	89	67
2011	114	82	98	—	124	89	154	124	80	106	59

### ②Ain Sebaâ工業地域で泥棒被害続出<sup>11</sup>

約800社が工場を有す Ain Sebaâ 工業地域(カサブランカ近郊)において泥棒被害が続いており、ここ10ヶ月で20社が被害に遭っている。銅、鉄などの原材料など市場での需要が多いものを狙うケースが多く、盗難品は40万DH相当のものが1万5千DHといった破格の値段で取引されているとの情報もある。初めは夜中に空き巣に入るケースが多かったが、最近では日曜日白昼堂々と侵入するケースも出ており、同地域の警備、犯人摘発の方法などに疑問が残る。海外投資を誘致するモロッコであるが、関係全所管の協力が必要である。

### ③汚職告発者保護法の発効<sup>12</sup>

20日、汚職告発者保護法(法令 37-10)が発効。守秘義務不履行罪として逆に告発されることや、いやがらせなどを恐れて、今まで汚職を見て見ぬふりをしていた者も、今後は同法の保護の下での告発が可能となり、汚職撲滅につながることを期待。

<sup>11</sup> エコノミスト(10月26日)

<sup>12</sup> エコノミスト(10月28日), Le Soir Echos(10月11日)

## II. 諸外国等との関係

### 1. 外国政府との関係

#### ①「偽造品の取引の防止に関する協定 (ACTA)」への署名(於:東京)<sup>13</sup>

1日,日本国外務省において豪州,カナダ,EU,韓国,メキシコ,モロッコ,ニュージーランド,シンガポール,スイス及び米国が参加し,「偽造品の取引の防止に関する協定 (ACTA)」の署名式典が行われた。(当館注:実際に署名を行ったのは,式典までに国内手続きを終えた8ヶ国(豪州,カナダ,日本,韓国,モロッコ,ニュージーランド,シンガポール,米国)。)

モロッコからはエル・マリキ産業・商業財産庁(OMPIC)長官(M. Adil El Maliki)及び在日モロッコ大使館アルール大使(SE.M.Samir Arrour)が出席し,署名はアルール大使が行った。なお,2009年7月にモロッコ,ラバトにおいて同協定の第5回関係国会合が開催されている。

#### ②第1回モロッコ・カナダ間FTA交渉ラウンドの開催(於:カナダ・オタワ)

11日～14日,第一回モロッコ・カナダ間FTA交渉ラウンドがカナダ・オタワで開催された。農業分野を含めた全ての分野にわたる交渉は円滑に行われた。2回目の交渉は2012年第一四半期に予定されている。

#### ③第4回国連腐敗防止条約(UNCAC)締約国会合の開催(於:マラケッシュ)<sup>14</sup>

24日～28日,第4回国連腐敗防止条約(UNCAC)締約国会合がマラケッシュにおいて開催された。モロッコからはアラム公共部門近代化担当大臣が出席した。NGOメンバーに加えて150カ国から約1500名が参加。

#### ④モロッコ経済社会評議会とスペイン経済社会評議会の協力<sup>15</sup>

19日,モロッコ経済社会評議会(Conseil économique et social)とスペイン経済社会環境評議会は(Conseil économique, social d'Espagne)が,今後の経済社会発展に向けて情報共有,年次合会などの開催などを行っていくことで合意。

#### ⑤スペインTrinidad Jimenez外務大臣がモロッコを訪問<sup>16</sup>

25日～26日,スペイン外務大臣がモロッコを訪問した。今後のモロッコとスペイン二国間貿易促進を目指して,モロッコに進出しているスペイン企業による「貿易強化財団(une fondation pour renforcer les échanges commerciaux)」の設立を提案した。

<sup>13</sup> エコノマップ(10月4日), Les Echos quotidien(10月5日)

<sup>14</sup> エコノマップ(10月27日), エコノミスト(10月25日)

<sup>15</sup> エコノマップ(10月21日)

<sup>16</sup> エコノマップ(10月27日)

## ⑥ポルトガル Paulo Portas 外務大臣がモロッコを訪問<sup>17</sup>

14日、ポルトガル外務大臣がモロッコを訪問した。2012年初頭に、経済発展を主要テーマとする二国間ハイレベル合同委員会の開催について言及。

## 2. 外国企業との関係

### ①ドイツ企業AE Photonics社の太陽光発電パネル製造計画<sup>18</sup>

ドイツ企業AE Photonics社はジョーフラスファー発電所近郊15ヘクタールの敷地に、キャパシティ300MWの太陽光発電パネル製造工場を建設する。開発は3段階となり、フェーズ1では投資額3000万ドルで2012年初頭にも生産を開始する。2015年までの投資額は総額2億ドルとなる見込みで、エンジニアなど750名を雇用する予定。同社は既に、ドイツからの太陽光パネル輸入や設置は開始している。

同社はまた、エルジャディーダから70キロメートル南方のワリディア(Oualidia)で農業用灌漑用水システムの開発を請け負っている。現行のパイロット計画は深さ35メートルの井戸を掘り太陽エネルギーを利用したポンプで揚水し、灌漑用水として使用するというもの。今後は Beni Mellal, Tizinisly などでも実施する。

### ②矢崎総業の第二工場(ケニトラ)が稼働開始<sup>19</sup>

自動車用ワイヤーハーネス製造会社矢崎総業は、タンジェに次ぐ第二工場をケニトラに建設。9月30日に行われた同開所式にはシャミ商工業・新技術大臣、アフマニ雇用・職業訓練大臣らが出席した。同社の世界シェアは29%、40カ国に拠点があり、全世界で22万人を雇用している。

同工場への投資額は2500万ユーロで3566名を雇用。タンジェ工場を含めるとすでに8600人を雇用、二年半後には第三工場を建設予定(場所は未定)で、2015年～2016年には雇用数1万人を超える見込み。主要取引先はジャガー・ランドローバー等。

### ③Bird & Bird英国系商事関連弁護士事務所の開設<sup>20</sup>

英国系の商事関連弁護士事務所であるBird & Birdが、間もなくカサブランカにオフィスを開設する。エネルギー、航空、自動車、農産加工、金融、新テクノロジー分野での投資の増加を見込みモロッコ進出を決定した。今後は中東・北アフリカ、サブサハラ地域でビジネス範囲を拡大したい考え。同社のほかにもAllen & Overy, Clifford Chance, Norton Roseといった英国系の商事関連弁護士事務所も進出を決定している。

<sup>17</sup> エコノマップ(10月17日)

<sup>18</sup> Les Echos quotidien(10月7日)

<sup>19</sup> エコノマップ(10月3日), エコノミスト(10月3日), オジヨドゥイ・ル・マロック(10月5日)

<sup>20</sup> エコノマップ(10月12日), ル・マタン(10月13日)

#### ④再生可能エネルギー分野でのフランスとの共同研究<sup>21</sup>

9月30日、モロッコ先端科学・イノベーション・研究財団(MAScIR: Moroccan Foundation for Advanced Science, Innovation and Research)とフランス原子力・代替エネルギー庁(CEA: Commissariat à l'Énergie atomique et aux Énergies alternatives)所属機関であるグルノーブル新エネルギー技術研究所(LITEN: Laboratoire d'Innovation pour les Technologies des Énergies Nouvelles)は、太陽エネルギー分野での共同研究で合意した。

砂漠気候や沿岸地域に設置することを念頭に CEA が開発した、フレネルレンズ使用の太陽熱発電(CSP)設備の最適化が目的。フレネルレンズの劣化テストを実施し、フレネルレンズ規格の分析を共同で行う。分析結果をもとに太陽熱発電設備の耐用期間の延長、コスト削減などに繋げ、現在の技術でどこまで最適化が図れるかを調査する。共同研究は3年間で投資額は1100万DHになる見込み。

(当館注: MAScIRは主として産業に近い応用分野での研究開発促進のために2007年に設立され、運営委員会には関係省庁(商工業・新技術省, 経済・財政省, 高等教育省, エネルギー省), 関連大学(アルアハウイン大学ほか), 関連機関(CDG, ハッサン2世科学技術アカデミーほか)等が参加。ナノテク, マイクロエレクトロニクス, バイオ, フォトニクスの4分野で研究プラットフォームを有し、現在約100名(PhD保有者30名弱)のスタッフを抱えている。研究分野としては上記4分野に加え、環境(水・エネルギー), 保健分野等も視野に入れている。)

#### ⑤フランス自動車金属部品会社GMD社がタンジェに進出<sup>22</sup>

フランス自動車金属部品会社 GMD 社(Group Mécanique Découpage)がタンジェに進出する。投資額は2.7億DHで工場の敷地面積は2万8000m<sup>2</sup>。ルノーのメルーサ工場へ自動車用金属部品を納入する。当初の従業員は120名の予定で、年間売上高9500万DHになる見込み。

#### ⑥ドイツ Schüco社による太陽光発電パネル販売<sup>23</sup>

アルミ加工、薄層太陽光パネル製造販売のドイツ企業 Schüco 社がモロッコに進出。家庭用、産業用、ホテルなどサービスセクター用の太陽光発電パネルを販売する。同社は世界75カ国に事業を展開しており、2010年の年間売上高は24億ユーロ。

### 3. 経済協力

#### ①フランス開発庁(AFD)がモロッコ燐鉱石公社(OCP)に借款<sup>24</sup>

AFDがモロッコ燐鉱石公社に1.8億ユーロの借款。海水淡水化施設(2箇所), 浄水場(3箇所), ダムからの導水施設(2箇所)の建設計画に充当される。

<sup>21</sup> エコノマップ(10月4日)

<sup>22</sup> エコノミスト(10月20日)

<sup>23</sup> Les Echos quotidien(10月25日)

<sup>24</sup> Les Echos quotidien(10月20日)

## ②フランス開発庁(AFD)が農業近代化計画(Plan Maroc Vert)実施に借款<sup>25</sup>

AFDが農業近代化計画(Plan Maroc Vert)PilierII(地域農業の付加価値工場)の実施に対し5000万ユーロの借款および30万ユーロの補助金供与を実施。Tanger-Tetouan,Taza-El Hoceima-Taounate,Fès-Boulemane 地域の乳酸品加工, オリーブ, アーモンド, りんご, ももなどの栽培と果実の高付加価値化, 蜂蜜の生産性向上などに充当される。

## ③フランス開発庁(AFD)とAttijariwafa銀行間協力<sup>26</sup>

AFDと Attijariwafa 銀行はアフリカ大陸, 地中海地域での投資促進に向けて協力していくことで合意した。同行系列銀行が保証するリスクの50%までをAFDが保証する(上限は借り手当たり200万ユーロ)。また, 中小企業に対する中長期融資の50%までを保証(上限は30万ユーロ)。この保証実施のためにAFDが用意する資金は総額5000万ユーロ。

## ④欧州復興開発銀行による援助<sup>27</sup>

欧州復興開発銀行(EBRD)による援助が, モロッコを含めた中東・北アフリカ諸国にも拡大される。最初の段階においては上限1億ユーロまでの補助金拠出が可能となる。

## ⑤モロッコにおけるアフリカ開発銀行(AfDB)の投資額<sup>28</sup>

モロッコにおけるAfDBの総投資額は累計60億ユーロ。そのうちの85%が情報通信, 道路, 空港, 港湾, 下水処理, 水, 環境, エネルギーといったインフラ関連。実施中のプロジェクトは現在30億ユーロ相当であり, 2012年は再生可能エネルギーを含めたエネルギー関連への投資を予定している

## 4. その他

### ① モロッコが国連安保理非常任理事国(2012-13年)改選で当選<sup>29</sup>

21日に行われた国連安保理非常任理事国改選(2012-13年の2年間の任期)でモロッコが当選した。同日, ファシ・フィフリ外務・協力大臣は, 選挙結果発表後に国連本部にて記者会見を開き, 「今次選挙当選は, モハメッド6世国王の外交政策に対する(国際社会の)信頼の表れである」旨述べた。同外相はまた, 「(アフリカ連合(AU)に加盟していないという)逆境及び(AUがトーゴとモーリタニアをエンドースしていたという)モロッコを疎外しようとする無駄な試みにもかかわらず, モロッコがアフリカ諸国から信頼を得て, 今次選挙で大きな成功を収めたことを誇りとする」旨発言した。

<sup>25</sup> エコノマップ(10月14日)

<sup>26</sup> Les Echos quotidien(10月20日)

<sup>27</sup> Les Echos quotidien(10月10日)

<sup>28</sup> エコノマップ(10月24日)

<sup>29</sup> 各紙報道(10月24日)

エル・ファシ首相は、「モロッコに投票した国は、アラブ、イスラム、アフリカ、そして地中海地域におけるダイナミックな外交政策を進める国としてのモロッコに票を投じたのである」とコメントした。

(当館注:非常任理事国10カ国のうち今年末に任期が切れる5カ国を改選する選挙で、モロッコ以外はパキスタン、トーゴ、グアテマラ、アゼルバイジャンが選ばれた。)

## ②モロッコ経済ミッションMaroc Exportが湾岸諸国を訪問<sup>30</sup>

22日～30日、モロッコ輸出促進庁(Maroc Export)は湾岸諸国へのモロッコ経済ミッション《Prospectour CCG 2011》を企画し、モロッコ企業関係者がカタール、クウェート、アブダビ(ドバイ、アブダビ)を訪問した。農産品、水産品、公共事業、革製品、医薬品、教育、情報通信分野におけるビジネスチャンスを探る。

---

<sup>30</sup> エコノマップ(10月18日)